

# 平成28年度 子供ゆめ基金体験の風リレーシップ事業 家庭の教育力を高める「ファミリーキャンプ④～復活～」

- 1 趣 旨 自然体験を通して家族の絆を深め、家族相互の交流を図る。
- 2 期 日 平成28年10月29日（土）～30日（日） 1泊2日  
※ 当初、9月17日（土）～18日（日）に実施予定であったが、台風接近のため延期実施とした。
- 3 対 象 者 キャンプや海浜活動など、自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 12家族60人
- 5 参 加 者 9家族30人  
※当初参加予定の14家族の中から9家族が参加
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員 ボランティア3人



## 7 日程と主な活動

10月29日（土）	10月30日（日）
14:00 受付（新城海の家・海浜観察室）	6:00 起床
14:30 出合いのつどい 歓迎のあいさつ 家族紹介 自然の家職員・ボランティア紹介 オリエンテーション	6:45 朝のつどい 7:00 朝食「洋朝食」 9:00 活動「カヌー体験」 「海遊び」
15:00 テント設営	10:40 シャワー
16:00 野外炊飯「バーベキュー」	11:10 テント撤収
19:30 シャワー	11:30 アンケート（新城海の家・海浜観察室）
20:30 自由交歓 家族間交流	別れのつどい 送別のあいさつ 参加者代表あいさつ ボランティア感想発表
21:30 消 灯	11:45 解 散

## 8 事業運営について

- (1) 9月に実施予定のファミリーキャンプ④を台風接近のため中止としたが、参加者の希望等により延期して実施とすることにした。
- (2) 海浜活動（カヌー体験や海遊びなど）の楽しさを体感していただくことを念頭に起きながらも、10月最終週における実施のため、寒さや風なども予想しながら活動時間を配慮した。
- (3) ボランティアが3人参加して、テント設営や野外炊飯時などを中心に活躍することができた。スタッフスケジュールに沿った「ボランティアの動き」を作成し、活動の手引きとなるように配慮した。

## 9 事業の実際

- (1) 出会いのつどいでの家族紹介の中で、「中止になってあきらめていたけれど、カヌー体験ができることになってとても嬉しく思いました。」といった意見が寄せられた。
- (2) 「テント設営」では、自然の家職員の説明を聞いた後、家族で協力しながら進めることができた。
- (3) 「野外炊飯」の時には、小さな子供（未就学児など）も野菜を洗ったり道具を運んだり、自分ができるお手伝いを行いながら、作業を進めていくことができた。小学生は安全に気を付けながら包丁で野菜を刻んだりかまどの火の調整をしたりしていた。
- (4) シャワー後の「自由交歓」では、子供たち同士は仲良く遊んだり、保護者間では楽しく会話したりと、家族間の交流が図られていた。季節外れの花火遊びも好評であった。
- (5) 2日目も天候に恵まれ、10月下旬とは思えないほどの暖かい日和となった。「カヌー体験」を初めて経験する保護者や子供がいて、練習の際にも大きく声を合わせて取り組んでいた。実際、海に出るとうまく進めかけた親子も練習を重ねる内にコツをつかみ、息を合わせてきれいに進むことができるようになった。
- (6) 別れのつどいの中で、参加者代表やボランティア全員の感想等から今回のキャンプを振り返ることができた。

## 10 参加者の感想

- カヌーや羽釜で御飯を炊くのはあまりしたことがないから良かったです。昔の人の暮らしが分かって良かったです。（子供）
- 子供の成長につながります。家族の思い出になります。キャンプ用の道具は高くてそろえることができないため、家庭には助かります。何よりも子供が、「楽しかった。また来たい。」と言ったことが嬉しかったです。（保護者）
- 娘といろいろ話をすることができて貴重な時間になりました。秋のキャンプということで、夜は寒く良い経験になりました。また参加したいです。（保護者）

## 11 成果

- 事前に、準備物や天候悪化による変更等について、各家庭に詳しく連絡していたので、トラブルもなく実施することができた。
- 子供たちはすぐに会話したり、仲良く遊んだりする姿が見られた。保護者間でも、楽しく会話しながら御飯を炊いたり食材の準備をしたりする中で交流が深まっていった。
- 保護者間の会話や感想等の中から、子供たちにとって、これからますます自然体験は必要になるので、保護者としてそういう機会を増やしていきたいという思いを感じ取ることができた。

